



環境活動レポート

[2021 年度]



2022年7月30日発行

株式会社 マルキ産業

本レポートの対象期間 2021年5月～2022年4月

1、事業概要

1. 事業者名

株式会社 マルキ産業
代表取締役 瀧田 武 司

2. 所在地

本社 栃木県塩谷郡高根沢町上高根沢 1 9 6 7 - 7
TEL : 0 2 8 - 6 7 5 - 2 8 7 0
宇都宮事業本部 栃木県宇都宮市平出町 2 8 0 - 2
TEL : 0 2 8 - 6 6 0 - 4 9 0 6

3. 事業内容

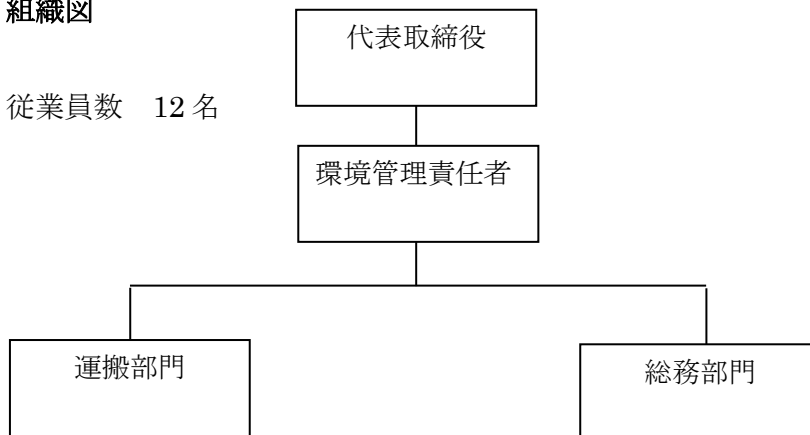
医療廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業
紙おむつ販売・回収、院内感染対策空気清浄機等の販売、機密文書等出張細断事業、

4. 事業規模

設立年月日 1988年 4月 1日
資本金 10,000,000 円
売上高 4.45 億円 (2021 年度)
敷地面積 900 m²

5. 組織図

従業員数 12 名



6. 環境管理責任者 瀧田 有 香

7. 連絡先

担当 瀧田 有 香 0 2 8 - 6 6 0 - 4 9 0 6

※当社は全ての組織、全ての事業活動を認証・登録の対象範囲として運用している。

8 保有許可一覧表

	許可	許可番号	許可年月日 (最初の許可 年月日)	最新の 許可年月日	有効期限	産業廃棄物														特管	一般				
						燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラス・コンクリートくず	鉛さい	がれき類	感染性廃棄物	ごみ・粗大ごみ					
収集運搬	栃木県	950073484	平12.11.27	平29.11.27	令6.11.26																				
	栃木県	900073484	平13.6.21	平30.1.9	令4.12.6	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○						
	茨城県	851073484	平12.11.22	平29.12.1	令6.11.21																				
	埼玉県	1100073484	平30.1.26	平30.1.26	令5.1.25		◎	○	○	○	◎					◎	◎								
	宇都宮市	第374号	平30.7.28	令4.7.28	令6.7.27																				
	さくら市	第973号	平31.1.10	令3.1.10	令5.1.9																				
	高根沢町	第84号	平30.8.6	令4.8.6	令6.8.5																				

当社は感染性廃棄物(栃木県・茨城県)の収集運搬について 2012 年 5 月に優良品認定事業者となっており、産業廃棄物(栃木県)の収集運搬について 2015 年 12 月に優良品認定事業者となっている。

産業廃棄物の種類に◎表示がある場合は水銀使用製品産業廃棄物を含む。

9. 収集運搬車両

車両の形状	運搬品目	自動車登録番号	最大積載量
バン (冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 54-87	2.5 t
バン (冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 せ 31-29	3.98 t
塵芥車	一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 11-37	2.0 t
バン (冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 54-43	3 t
バン (冷凍車)	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 800 す 1-28	1.3t
塵芥車	一般廃棄物	宇都宮 830 さ 17-23	3.2t
塵芥車	一般廃棄物	宇都宮 830 せ 805	2.9t
小型移動式クレーン車	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 100 せ 76-12	2.2 t
バン (冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 せ 15-76	2 t
小型貨物車	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 76-56	1.2 t
バン (冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 96-19	2.95 t
塵芥車	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 800 せ 505	2.6t
塵芥車	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 800 せ 2353	2.95t
バン (工業作業車)	機密書類	宇都宮 800 す 70-61	4 t

10. 処理の実績（2021年5月～2022年4月）

収集運搬		
感染性産業廃棄物		1,733.32 t
産業廃棄物	廃プラスチック	55.81 t
	汚泥	1.02 t
	木くず	11.28 t
	金属くず	42 t
	水銀使用製品 廃プラスチック	0.12 t
	ガラス及び陶器くず	15,065 kg
	水銀使用製品 ガラス陶磁器くず	0.06 t
	水銀使用製品 金属くず	0.12 t
	燃え殻	90 t
一般廃棄物	焼却ごみ	648,336kg

2、環境方針

環境経営方針

《基本方針》

我々社員は、安全かつ安心して廃棄物関係の業務を任せていただけるような会社を目指します。また、我々に関わった人々が一人でも多く環境問題を意識してもらえるよう、廃棄物処理に関わる様々な取組みの発信及び周知徹底を努め継続的な改善に努めます。

《環境方針》

基本理念に基づき、地球環境の保全と調和を目指し、持続的発展と、社会責任を果たし貢献する活動を社員一同で実現して参ります。

- 1、 当社は、環境関連法令及び廃棄物処理法を遵守します。
- 2、 収集運搬の燃料節減を目指し、二酸化炭素の削減を推進します。
- 3、 節水・節電を徹底し、排水量及び電力量の削減を推進します。
- 4、 事業活動における運搬車両、及び機器等の効率化を図り、省資源、省エネルギーに取り組みます。
- 5、 排出事業者が廃棄物の分別を適正に行えるよう啓蒙活動に取り組み、環境保全に努めます。
- 6、 環境方針を当社及び関係者に周知徹底し、社外にも開示します。

2020年9月18日

株式会社マルキ産業

代表取締役社長 瀧田武司

3、環境目標とその実績

目 標		2021 年度目 標 (2021. 5～2022. 4)	実 績	評 価 (基準値との差)
二酸化炭素排出 量の削減 (kg-CO ²)	医療・産業廃棄物収集運搬 車両の燃費向上 (km/ℓ)	2018 年度基準 5.56 ↓ 5%向上 5.84	5.75	基準比 1.03%向上 (+0.19) 目標 未達成
	一般廃棄物収集運搬 車両等の燃費向上 (km/ℓ)	2018 年度基準 5.84 ↓ 5%向上 6.13	5.84	基準比±0 (±0) 目標 未達成
	営業車両の燃費向上 (km/ℓ)	2018 年度基準 9.85 ↓ 4%向上 10.24	9.60	基準比 0.2%低下 (-0.25) 目標 未達成
	電気使用量削減 (kWh)	2018 年度基準 14,897 ↓ 4%削減 14,152	22659	基準比 52.1%増加 (+7762) 目標 未達成
		2018 年度基準 100,167 ↓ 4%削減 96,160	114,922	基準比 14.7%増加 (+14574) 目標 未達成
販売戦略	廃棄物分別コンサル活動	1ヶ月 1 件	契約直結 2 件	目標 未達成
廃棄物排出量 削減	ミスコピー削減 (枚)	2018 年度基準 210 ↓ 20%削減 168	212	基準比 1.0%増加 (+2) 目標 未達成
水使用量削減	節水 (m ³)	2018 年度基準 48 ↓ 7%削減 45	42	基準比 13%減少 (-6) 目標 達成

・電気の排出係数は東京電力の 0.462 を使用した。

二酸化炭素排出量の推移

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
kg-CO ²	100,057	100,167	98,779	114,741	114,922
購入電力の排出係数	0.531	0.531	0.462	0.462	0.447

4、環境活動の内容

(1) 二酸化炭素排出量削減

① (医療・産業・一般廃棄物) 収集運搬・出張細断車・営業車両の燃費向上

- ・やさしいアクセル操作 (最初の5秒で時速20km目安)
- ・エンジン始動時アクセル踏み込まない。
- ・「波状運転」はせず、一定の速度で走るようにする。
- ・「予知運転」を心掛ける。
- ・車間距離に余裕をもって走行している。
- ・早めのシフトアップを心掛ける。
- ・赤信号や停止位置が分かったらエンジンプレーキで惰力走行する。
- ・坂道や減速時に惰力走行を心掛ける。
- ・気象条件に応じて社内の風量・温度を適切に管理する。
- ・待ち合わせ・荷物積み下ろし時はアイドリングストップ。
- ・タイヤの空気圧を適切に保つため、確実な点検・整備を行っている。
- ・オイルの量が、オイルレベル・ゲージの範囲内にあるか点検するとともに、定期的に交換。

② 電気使用量削減

- ・事務所の不在時の消灯や使っていない場所の消灯を徹底する。
- ・パソコン、FAX未使用時は省エネモードにする。
- ・エアコンの温度管理及び時間別使用を徹底する。
- ・エアコンフィルターを清掃する。
- ・ブラインドをうまく活用する。

(2) 廃棄物排出量削減

- ・コピー時はサイズ設定を確認し、印刷時は設定を確認する。
- ・印刷時はできるだけプレビューで確認して行なう。
- ・できるだけ両面印刷を行なう。
- ・裏面コピーを心がける
- ・FAXはできるだけ、Eメールでお願いする。
- ・失敗した紙はメモに再利用する。

(3) 水使用量削減

- ・水の出しっぱなしに注意する。
- ・水を出したとき必要以上に出さない。
- ・洗いものはなるべくまとめて洗う。
- ・節水シールを貼って啓蒙する。

(4) 環境保全 (廃棄物分別コンサルティング活動)

- ・取引先が廃棄物分別を適切に行い、適切に管理できるよう促進し、環境保全に取り組む。

5、環境活動の取組結果の評価と今後の取組

(1) 二酸化炭素排出量の削減

① 医療・産廃収集運搬車両の燃費向上

基準年に対して1.03%向上し、目標は未達成であった。

良かった点としては、乗車前点検を滞りなく行うことができ、エコドライブのマニュアルに沿って、毎月チェックすることもあり具体的に意識して運転をすることができた。

昨年あったクレームだが今年度はなく、会社の看板をしょって走っている自覚もあるように感じた。

今後も燃費削減を意識しエコ運転に取り組む。

②一般廃棄物収集運搬車両の燃費向上

基準年に対して同様の燃費結果であったが、目標には至らなかった。
車両定期点検の実施もわすれることなくでき、また日々の実施内容がよく取組んでいた。夏場・冬場のエアコン・暖房使用は、設定温度に気を付けていても暑い時は風量全開にするなど対応できないこともあった。
今後も、燃費達成を目指し、引き続きエコ運転等の取組を心がけていく。

③営業車両の燃費向上

基準年に対して0.2%低下し、目標にも至らなかった。
よかった点としては、できる限り急発進・急加速をせず、安全運転を心掛けたことである。
未達成要因として、休憩時にエンジンをかけながら休憩し、不必要なアイドリングを行ってしまっていたことが考えられる。
今後も暖房・エアコン使用には気を使いながら燃費削減に取り組んでいく。

④電気使用量の削減

基準年に対して52.1%増加し、目標も未達成であった。
それぞれの事務所で意識している様子があった。しかし、事務所内窓を換気の為開けていることもあり、窓閉めきり時よりも風量を強くしてしまったりしていたように感じる。
室内に誰もいないときに、エアコンや電気を消すなど、まだ対策の余地はあると感じる。
今後も電気の使用削減を心がけていく。

(2) 廃棄物排出量削減（ミスコピー減少）

基準年に対しては1.0%増加し、目標も達成できなかった。
要因としては、同じ内容の書類を大量に印刷する際に、印刷ミスや入力ミスなどが判明「することが多かった。メモでの再使用などは活用できていた。
今後とも意識して取り組んでいく。

(3) 水使用量の削減

基準年も目標もクリアすることができた。
2021年5月6月は飲料水として使用できない期間であったため、実績が少なかった部分もある。出しっぱなしや無駄遣いには注意することができていた。今後もまとめ洗いなどを意識し節水を心がけていく

(4) 環境保全（廃棄物分別のコンサルティング活動）

昨年同様のコロナ禍により、クラスター発生時は度々回収に行くなど対応におわれることもあり、月1の対応はできないこともあったが、回収担当から分別ができていない事業者を聞くことも多く、そのような場合に分別のお願いをするなど、毎回事業者への適切な案内はできていた。分別指導の結果産廃の依頼に繋がった。

7、 中期目標 (2022 年度～2024 年度)

取 組		基準値 2021 年度	2022 年度目標 (2022. 5～2023. 4)	2023 年度目標 (2023. 5～2024. 4)	2024 年度目標 (2024. 5～2025. 4)
二酸化炭素 排出量 売上高原単位 削減 (kg-CO ²)	医療・産業廃棄物 収集運搬車両の 燃費向上 (km/ℓ)	5. 75	現状維持 5. 75	現状維持 5. 75	現状維持 5. 75
	一般廃棄物収集運 搬車両の燃費向上 (km/ℓ)	5. 84	現状維持 5. 84	現状維持 5. 84	現状維持 5. 84
	営業車両の 燃費向上 (km/ℓ)	9. 60	現状維持 9. 60	現状維持 9. 60	現状維持 9. 60
	電気使用量削減 (kWh)	22, 659	2%削減 22, 205	2022 年実績 より 2%削減	2023 年実績 より 2%削減
	114922÷445, 490, 499	0. 00025	現状維持 0. 00025	現状維持 0. 00025	現状維持 0. 00025
廃棄物排出量 削減	ミスコピー減少 (枚)	212	10%削減 191	15%削減 180	20%削減 170
水使用量の削減 (m ³)		42m3	2%削減 41	現状維持 41	現状維持 41
廃棄物分別コンサルティング [※]		毎月 1 件 分別コンサルティング提案			
環境配慮項目		・ 上記の収集運搬車両の燃費向上			

※化学物質使用量削減の目標については、使用している化学物質がハンドソープ程度のものであることから、目標として取上げていません。

※二酸化炭素排出量の電気の排出係数は東京電力の 0.447 を使用した。二酸化炭素排出量のみ売上高原単位目標とし、維持目標とする。(代表者考察より)

※代表者考察より、燃費は現状維持目標とする。電気に関しては基準年を前年度にする。他はこれまで通りの設定方法。

7、 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2022年6月30日に環境関連法規の遵守状況をチェックし、違反はありませんでした。

また、関係当局からの違反等の指摘も過去にありません。

同様に、訴訟もありません。

本年度苦情はありませんでした。

8、代表者による全体評価と見直しの結果

本年度は、コロナ禍の猛威が未だ断ち切れる状況ではなく、弊社取引先でもクラスターが代わる代わる発生したことから、廃棄物分別の問い合わせが多く、目標の1つに掲げている分別コンサルティングの出番は多かった。

しかしながら、達成事項は節水のみで、他の目標は未達成であった。これらの要因について振り返りと、今後については目標に対する方向転換を余儀なくされたと考えている。

まず要因についてであるが、燃費に関していえばここ4年振り返ると基準年は別として、目標達成は1度しかない。

新たに取り入れたエコ運転や日々の車両点検等は日々の記録から見てもよく取り組めていることから、車両の入れ替え、車両自体の能力低下も要因であろうと考えられる。

これらのことを踏まえ燃費の削減には限界があり、2022年からの中期目標は 現状維持という目標設定にし、基準年に関しても車両の入れ替えがあった際は変更していく。

また、電気使用量に関しても、新たな事務所棟使用場所で、2019年、2020年と1ヶ所ずつ増設したため、2022年からの目標と中期目標も基準値見直しは必須のため変更する。

さらに2022年5月からの目標設定ではCO2のみ売上高原単位で目標設定を行う。弊社の場合、軽油やガソリン等でCO2排出量の91.2%を占めること、また、燃費削減の為に始めた具体的取り組みのエコ運転はドライバーの安全運転にも大いに繋がることから、弊社の運営に適した形にしたく燃費は売上原単位設定としない。

以上のように目標値等、今後運用のうえ議論しながら弊社に適した形を模索し環境経営に努めていきたい。

日本を含む世界中の企業に、「SDGs」の目標達成に向けた取り組みが強く求められている中、持続可能な社会の実現に向け、企業の環境経営への取組は今後の社会を生き抜くための必須要件となりつつあると考えられる。

新しい時代に選ばれる企業になるためにも、未来の子供たちが気持ちよく深呼吸できるような地球環境を守るためにも、今後とも環境保全・環境経営へ繋がる取り組みを目指していく。

